

日本山岳会 越後支部報

第 24 号

平成31年2月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 遠藤 家之進正和

新潟県新潟市南区鷺ノ木新田1049

TEL・FAX 025-362-5004

広報委員長 佐久間 雅義



私の一枚

米山のブナ林

米山のブナ林に魅せられて一時期よく登った。特に冬の季節風が吹き荒れた後のブナ林は見事だ。

枝に新雪が絡み、でんと立つブナの姿は、何百年も日本海からの風雪に耐えてきた圧倒的な重量感を感じさせてくれる。

積雪期は、ブナ林の中の直登を強いられるが、ブナ林を抜ければ、日本海が一望のもとに望め、今までの苦しさも吹き飛んでしまう。

撮影 遠藤 俊一

年頭の挨拶

支部長 遠藤家之進正和

平成最後の正月を迎え、会員の皆様には気持ち新たにされたことと思います。

支部の活性化を図るための方策をここ数年論議を重ねてきました。構成年齢が全国平均を上回っていることから、若い会員の勧誘を進めています。難しい現状です。

かといって、活動を停滞することはできません。そこで、60才以下の会員拡大を目指して「ユースクラブ（仮称）」を設置し、活動を進めようとしています。現在支部に60歳以下の会員は11名しかおりません。この11名から一人でも増やそうと動き始めることとしたのです。地道な活動を進めれば、必ず成果が出てくるものと信じています。会員個々の現状認識と危機感を共有する事も大事なことと思います。

事業委員会では、これまでの事業に加え、「平日トレッキング」を女性スタッフ中心に立ち上げ、健康寿命を延ばす山行を予定しています。また四支部交流会を6月に妙高笹ヶ峰高原の「夢見平」で開催します。開催も3巡目に入り、支部はもとより他支部との交流を深めるためにも多くの参加をお待ちしています。

新潟県山岳協会と共催事業である「子ども登山教室」も3年目を迎え、本格的な登山活動に入ります。安全活動のため多くの支援を必要としますのでご協力をお願いします。

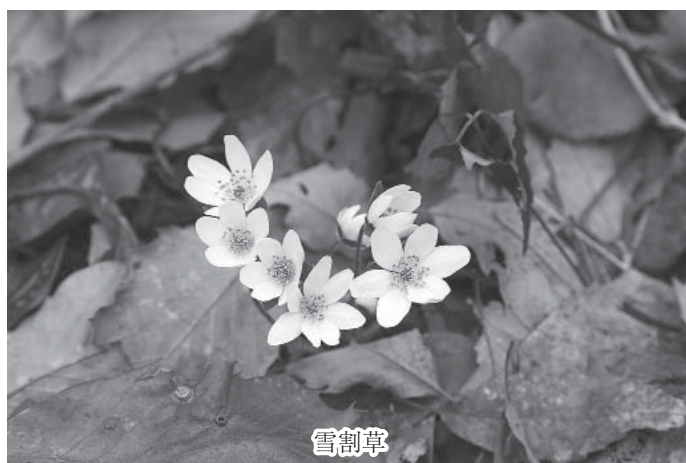
今年の活動が、安全に遂行できることを願いまして年頭の挨拶とします。

早春の花

雪解けの頃になるとソワソワしてくる。

山に雪割草が咲き始めるからだ。雪が解けるとすぐ、つぼみが落ち葉を持ち上げる。残雪のころから偵察に出かけ、まだかまだかと待ちわびる。今日もまだかとながらりするが、早春のこんなひと時も悪くはない。

K・S



雪割草

未知の山シリーズ

大鳥屋岳の県境未定地域

知野 勇人

新潟県の県境には境界未定地域が四ヶ所あります。その内の二つは村上市と鶴岡市の境界上の大鳥屋岳南東側と重蔵山の北側にそれぞれ数百mの距離で県境が途切れています。なぜ、県境が途切れているのか？特に大鳥屋岳の未定地域は山頂から真直ぐ境界線を引けばいいだけの様に感じます。不思議に思った私は未定地域をこの目で見たいと思いました。見たからといって無学な私に何がわかるわけではありませんが、好奇心が先に立ち昨年の5月中旬、大鳥屋岳の県境を見に行くことにしました。村上市の市道鈴滝線はまだゲートで閉じられていましたが、この日は陽気も良さそうなので長い林道を歩いていくことにしました。鈴橋を渡り平床谷の九十九折りまで来ると巨大なスラブに雪解け水が大きな滝となつて流れています。この時期しか見ることができない滝を拝めて長い登りの林道歩きの弾みとなりました。標高600mを超える林道は雪で覆われてきました。芽吹いたブナ林が春の日差しの中に広がっています。スーパーラインに合流し東側の谷の向こうに重蔵山など県境を望みながら歩を進め、大鳥屋岳の真南、スーパーラインの標高750m地点で適当に斜面に取り付きました。ここから北西に少し進んで県境の途切れている尾根沿いに登り、残雪の斜面を

藪に苦労しながら大鳥屋岳の山頂に着きました。未定地域を実際に歩いてみたのです。目についたのは灌木の茂みぐらいで、

県境が途切れている理由は皆目見当が付きませんでした。後日、この地域のことをネットで調べてみると鳴海金山とその伝説がある事を知りました。1600年頃、

全国の産金量の3分の1を算出したこの金山は1615年頃採金の廃止になった時、山の宝として秘蔵されていた金の扉の一对の一つが山に埋められたという伝説です。この伝説の真否はともかく大鳥屋岳付近の県境に未定地域があるのは鳴海金山と何か関係があるのかも知れないと思いました。稚拙な考えではありますが、私には当初の疑問を解消するには十分なうえ、山行の楽しみ方の幅が広がることとなりました。



た。1600年頃、全国の産金量の3分の1を算出したこの金山は1615年頃採金の廃止になった時、山の宝として秘蔵されていた金の扉の一对の一つが山に埋められたという伝説です。この伝説の真否はともかく大鳥屋岳付近の県境に未定地域があるのは鳴海金山と何か関係があるのかも知れないと思いました。稚拙な考えではありますが、私には当初の疑問を解消するには十分なうえ、山行の楽しみ方の幅が広がることとなりました。



靴音・よりの集い

五頭山

平成30年10月20日 参加者14名

小泉 良夫

五頭山は子供の時から親しみ馴染んだ山で、数えきれないほど登っているが今回は新しい発見があった。

小雨がぱらつく中、どんぐりの森駐車場8時30分集合。公募登山参加者の女性2名と会員12名、計14名で歩き始める。登山口まで20分の足慣らし。三ノ峰コースは登山口から急登が続く、登りきると四合目の標識があり、ここで小休止する。空が少し明るくなってきた五合目を過ぎたところから雨はあがった。登り始めて約1時間、七合目



の長助清水で大休止する、雲の隙間から青空が見える。八合目ぐらいからガスがわき始めた。10時40分、三の峰に到着し休憩をとる。天気は薄曇り。ここから一ノ峰まで進み希望者数名が五頭山まで足を延ばす。藤島玄著書の下越の山旅でも「三角点の峰は913メートルで最高だが小突起で、灌木叢に囲まれ

て眺望も狭く行っても失望することであろう」と書いてある。私も何度か行つてそのとおりだったが、今回は眺望が有り明るかった。ただ天気が悪くなかったので遠くの山々が見えなかったのが残念。次回天気の良い日に確認したい。一ノ峰に戻り昼食を食べ記念写真を撮って、12時20分に下りは始める。三ノ峰からは、登ってきた道を引き返す公募参加者2名と引率の佐久間さんの班、残りはスキー場コースへと2班に分かれた。10分ほどで五ノ峰に着く。今回は一か



ら五ノ峰を踏破。ここからは出湯コースを下る。場所によっては浸食が進み背丈の倍くらいえぐられている所もある。赤安山分岐を過ぎたあたりからポツリポツリと雨が当たってきたので傘を出して様子を見る。通り雨のようですぐに上がった。しばらく下ると扇山分岐からスキー場コースに入

る。小さなアップダウンを繰り返して扇山のわきを進む。昔ここにスキー場があったと思うと懐かしい。ブナ林を下りると登山口に出る、2時45分駐車場着。天気はあまり良くありませんでしたが、皆さんのおかげで大変楽しい山行でした。

山靴シリーズ

今年の山行を振り返って

多田 和広 (16166)

私が日本山岳会の越後支部に入会させていただいたのは2017年のシーズン終わりの頃です。2018年は去年以上にもっと山に登ろうと思い、精力的に登山に励みました。その後、広報委員長である佐久間様のお誘いで山行をHPに掲載させていただくことになりました。まずは興味を持っていただけだと思います。いままで名前を伏せていました。山行記録のK・T著は多田和広になります。

基本的に仕事の都合上、連休が取れずに山行はどうしても日帰りになります。人にはそんなに急いでどこへ行くともいわれることはありませんが、長時間山の中にいることで魅力は十分に感じられると思っています。ただ、重い荷物を担ぎやとたどり着く小屋での、人と人との触れ合いだけは得られません。いつかゆっくり時間をかけ縦走してみたいと思います。以降各月の主だった山行を挙げてみました。

3月 北股岳、弥平四郎、飯豊本山、御神楽岳、大日杉、切合小屋、ピストン

本格的に飯豊に足を運ぶようになったのは3月からでした。非常に天候に恵まれた北股岳や飯豊本山など、豪雪で残雪と呼ぶにはまだ早い季節の飯豊を、遠くまで見渡せる景色を見ながら歩けたことは非常に幸運でした。この時期はもちろん登山道まで開通している車道などないので、数キロのアルバイトをかんじきで常にし、鍛えられたことが今年これから歩く山々に生きました。



矢筈岳

4月 矢筈岳、毛猛山、駒形山、蒜場山、烏帽子山、クサイグラ尾根、西俣ノ峰

毎年残雪期に恒例となっていた矢筈岳には今年は悩まされました。車道のデブリを躲せないこと数回を経てようやく登れたことが良い思い出となっています。去年には体力的に諦めていた毛猛山、烏帽子山には

登頂はできたものの、どちらも天候には恵まれず、ただピークを踏むだけになってしまったことは残念でありました。この数年

気になっていたダイグラ尾根と梶川尾根に挟まれたクサイグラ尾根にも登れ、様々な魅力に溢れている尾根であるということを知れたのは、非常に幸せな体験でした。

5月 石転び沢ピストン、大日杉、西大日、ダイグラ尾根、西俣ノ峰

春の高温で石転び沢の雪渓が例年以上に少なかったことが記憶にあります。毎年毎年増減はあるものの、登山者と同じく雪渓も減少していくのではないかと、そしていつか石転びを歩く楽しみを奪われるのではないかと非常に心配です。稜線からの下山に何度も使った西俣ノ峰が、刈り払いが進み、歩きやすくなっていることがありがたかったです。

6月 梅海新道、朝日岳、足の松尾根、北股岳、一切経山、角田山、足の松尾根、本山ピストン

新潟の気候が安定し、昼の時間が1年で最も長い6月は、必然と距離の長い山行が増えました。

さわがに山岳会に切り開かれた梅海新道を日本海から辿り、朝日岳に至った時には非常に感慨深いものがありました。足元の高山植物をじっくり眺めながらゆっくりと歩いてみたいです。

足の松尾根からの本山ピストンは、これまでの山行で鍛えられた体力で、50キロを14時間で往復し、余力を持ってお花畑を愛

でながら歩けたことが収穫でした。

7月 大朝日大廻り、胎内尾根、足の松尾根、川入、本山ピストン

いつかは歩こうと思い、長い間飯豊の稜線から眺めるだけだった鋭鋒である二ツ峰へ登れたことが今年登った山の中で一番印象に残っています。登山口としては廃道である胎内尾根、または残雪期の焼峰山もしくは二王子岳からのバリエーションルート

でしかたどり着けなく、簡単ではないことが、一層思いを募らせていました。主だった詳細はホームページに譲りますが、日帰りということもあり綿密に時間を計算し、夏季に蜜蝋の中を右往左往とツルに絡まりながら四苦八苦し、奥胎内ヒュッテから9時間半かけて二ツ峰のピークを経由し、お花畑と池塘を眺めながら門内岳に到達できたことが、非常に嬉しいものとして残っています。漆かぶれも経験し、眠れぬ夜を過ごしたのも忘れられません。

8月 大樽山、鉾立峰、弥平四郎、本山、川入、本山ピストン、内ノ倉ダム、二王子岳

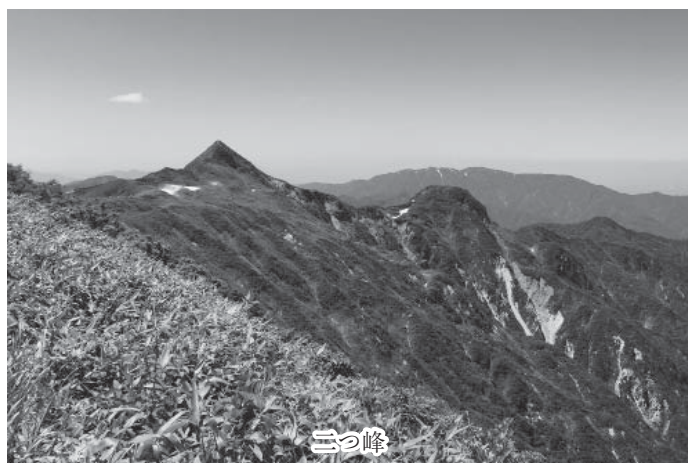
何故か胎内尾根以降、猛暑にも関わらず藪漕ぎをすることが増えました。足の松尾根から見上げていた尾根には机差岳の良く見える場所や、池塘もありました。残雪期には見えない地形や植生なども夏の藪漕ぎでしか体験できない良い思い出です。私にとって飯豊山塊で未踏である場所には、非常に興味があり、いつか歩いてみたいという衝動にかられます。

11月 水晶峰、笠掛山、櫛ガ峰

以前から名前を知っていた水晶峰直下の大根おろしに漸く訪れることができた。おろし金を思わせるようなかなりの急登ではありますが、近年整備されたようด้วย水晶峰までは良い道がつけられています。水晶峰以降はひたすら笹藪を櫛ガ峰まで漕ぎました。

去年は計72回山に足を運びました。

まだまだ知らないことがたくさんあります。これからも一つ一つ勉強しながら、ご近所の山、たまに遠くへ、そして飯豊連峰へ足を運べたら、幸せな登山人生なのではないかと思っています。



三ツ峰

山崎名誉会員のライフワーク
「会津と弥彦神社」を聴く
平成30年度日本山岳会越後支部
年次晩餐会

平成30年12月8日(土) 新潟市の新潟東映ホテルにおいて、68名が参加して恒例の年次晩餐会が開催された。

物故者5名に黙祷を捧げたあと、遠藤支部長から「12月1日に東京で開催された本部晩餐会において、『高頭祭と弥彦山松明登山』をテーマに展示した越後支部を初め全国8支部から特別展示があり、皇太子殿下のご臨席を賜り、大変興味深くご高覧いただいた。また、本日は残念ながら欠席となったが、堀口岳郎会員が長年にわたる選挙管理事務の功績により『藍綬褒章』を受賞した。皆で祝いたい。」との挨拶があった。来賓祝辞では、新潟県山岳協会の遠藤俊一副会長からの挨拶。新永年会員に岩崎英宣氏、木村操一氏、本望英紀氏の紹介(当日欠席)と続いた。

記念講演は、本年4月に「弥彦神社各地分布の謎」A5判・500頁の探訪記を出版された山崎支部名誉会員より「会津と弥彦神社」と題してお話があった。弥彦神社は県内外に47分社あり、その全てを30年の月日をかけて、自らの足で一つ一つ現地を訪ね、その由緒を究明してきたという。「なぜ、会津に12分社も弥彦神社があるのか」という素朴な問いに、「会津横田のルートは、平安末期の鎌倉・山ノ内氏にある」「越



後と会津を結ぶ八十里越や六十里越など塩の道の交流が大きい」など、地理的条件と歴史を絡めて話され、登山者にとっても興味深いものだった。

記念撮影のあと、橋本正巳顧問の乾杯、そしてお待ちかねの懇親会が行われた。本年度の新入会員は3名で、出席された丸山

健吾氏の紹介と挨拶があった。
この交流会を毎年楽しみにしている会員も多く、お酒を飲みながら、和気あいあいの晩餐会となった。

後藤 正弘



親友、遁所彊二君逝く

晋我追悼曲

これは俳人と謝蕪村が友人の北壽老仙という人の逝ったのを悼んで歌った詩である。

私は遁所君をしのいでこの歌を捧げる。

日本山岳会会員(3497)

上村 幹雄

君あしたに去ぬゆふべのこゝろ千々に
何ぞはるかなる
君をおもふて岡のべに行つ遊ぶ
をかのべ何ぞかくかなしき
蒲公の黄に薺のしろう咲たる
見る人ぞなき
雉子のあるかひたなきに鳴を聞ば
友ありき河をへだて、住にき
へげのけぶりのほと打ちれば西吹風の
はげしくて小竹原 眞すげはら
のがるべきかたぞなき
友ありき河をへだて、住にきけふは
ほろゝともなかも
君あしたに去ぬゆふべのこゝろ千々に
何ぞはるかなる
我庵のあみだ仏ともし火ものせず
花もまいらせずすこすこ行める今宵は
ことにたうとき

ご冥福をお祈りします

公募登山について

事業委員長 小山 一夫

2016年(平成26年)より実施した公募登山も5年目を迎えました。最初は簡単に参加者が集まると思い事業を始めましたが、なかなか参加者が集まらず苦労しました。最近は皆様のご支援とご協力のおかげで、常に定員を満たすことができるようになりました。公募登山の参加者が山を楽しみ・山が好きになるような魅力ある山を案内し、続けて参加できる公募登山に行きたいと思っています。

2019年度開催予定の「上高地集会」はすでに定員をオーバーしております。

2019年度は上越中心の山行から始めて下越の山を、平田 大六氏をリーダーとして実施します。

2019年度より女性活躍の場を増やし、会員増強につながる目的で「平日トレッキング」を実施します。女性リーダーを中心に、女性会員により女性の参加者を募ります。公募登山の参加者は女性が多いというのが理由であり、会員増強につながります。

実施要領
・スタッフは、女性会員を中心に構成する(一部除く)。

・当面は年2回程度とするが、状況次第で回数を増やしてゆきたい。

・春は花、秋は紅葉を楽しむ。

・普段、ウォーキング等で体を動かしている人を対象とする。

・できるだけ、登山ルートと下山ルートを別にする。

2019年度「公募登山」の日程・山域

・6月23日(日) 要害山・朴坂山縦走
L・平田 大六氏

・8月24日(土)・25日(日) 上高地集会
参加者が多くキャンセル待ちです。

・10月20日(日) 大毛無山
L・後藤 正弘氏

(平日トレッキング)

・4月25日(木) 長岡・東山
・10月10日(木) 箆町南葉山

猪野山南葉山

事務局からのお知らせ

引き続き会員拡大へご協力を!!

この1年、会員の皆様のご協力により3名(本年支部総会以降)の新しい仲間を越後支部に迎えることができました。ありがとうございました。

しかし、越後支部会員の平均年齢は73歳と全国平均より5歳高く高齢化が急速に進行しています。今後、会員の減少が加速されることを危惧しています。支部では活性化に向けて、事業を増やし魅力ある山岳会づくりに努めています。今後も厳しい現状を支部全体で共有し、引き続き新入会員勧誘にご協力ください。

支部事務局へ問い合わせただければ「パンフレット」及び「入会申込書」を送付します。是非、お声がけください。なお、「入会申込書」は日本山岳会ホームページからもプリントできます。

越後支部ホームページが充実しています。是非、覗いてみてください!!

越後支部ホームページが、充実してきました。随時更新して、ホットな情報を提供しています。是非、覗いてみてください。また、表紙写真の投稿を受け付けています。皆さんの素晴らしい写真を表紙に登場させてください。

詳しくは、佐久間広報委員長へ問い合わせください。(☎090-1263-7281)

支部会員動向(2018年5月～2019年1月)

1 物故会員

大橋 榮蔵(8183)

長岡市 2018年4月逝去

頼所 彊二(10582)

新潟市中央区 2018年9月逝去

白川 勇(8591)

五泉市村松 2019年1月逝去

2 除籍会員

横田 春雄(8292)

燕市 2018年12月末

3 新入会員

佐藤 真弓(16320)

新潟市中央区 2018年5月

小林 勇(16343)

新潟市江南区 2018年5月

丸山 健吾(16413)

長岡市 2018年11月

4 支部会員総数(2019年1月20日現在)

185名

支部報第23号の一部訂正

10月22日付けの越後支部報第23号の一部に間違いがありましたので訂正します。

・5頁 日本300名山の講演と飯士山登山3段目13行目

【誤】 300名山には入っているが200名山

【正】 200名山には入っているが300名山

・8頁1段目3行目

【誤】 三面川

【正】 大石川

編集後記

登山の楽しみ方は人さまざまで、求めているものもまた様々です。

花や景観の美しさ・空気の爽やかさ・悩みの解消・体力維持・記録の達成、等々きりがありません。

今回の寄稿で面白いと思ったのは、2頁の何故そこが「県境未定地域」なのか、そこがどんなところか知れたかったというものです。登山の動機としてはこれまで聞いたことがありませんでした。

もう一度地図を広げてみようかな。

編集・鈴木 勝利